

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

**エントリー学校名：兵庫県 明石市立 大久保小学校**

**活動名：笑顔あふれる学校をめざす ～自ら学ぶ子を育成する大久保魂～**

**解決すべき課題：**  
 本校は市内で最も広い校区をもつ大規模校である。学級数は41、児童数は1200名を超える。一学年200名を超え、同学年でも校舎や階が分かれたり、活動場所が限られたりする。その為、他クラスの仲間との関わりや異学年交流が少なく、人との関わりが苦手と感じる児童が多い。行事や活動に自分から進んで取り組む児童もいるが、他人に任せ、自分は何もしないという児童もいる。このような現状の解決に向け、教職員の指導・支援が必要である。しかし、教職員が70名を超える本校においては、毎年15名程度の異動者がおり、同じ方向性で継続し、指導・支援をしていくことに課題があった。

**目標・方針：**  
 上記の課題を解決する為には、教職員だけでなく、児童も同じ目標に向けて行事や活動に取り組むことが必要だと考えた。そこで、学校教育目標「笑顔あふれる学校」に向け、教職員・児童で継続した取り組みができなやかと考へた。まず、研究主題を「自ら学ぶ子の育成」、児童のめざす姿を「みんなの笑顔に向けて主体的に関わる姿」とし、教職員で共有した。授業の中でも、主体的に学習に取り組む児童の姿をめざすこととした。次に、全教育活動で取り組むことができるよう、特別活動を軸にした児童を育む視点として『大久保魂』を設定した。「自分」「周りの人」「とき」「もの」「つながり」のキーワードを、教職員と児童で共有し、これら5つの心を大切に、日々の生活を過ごすようにした。

**活動内容：**  
 年間カリキュラムの学級活動で『大久保魂』のめざす姿を共有し、行事や学期毎にその姿をふりかえる時間を設けた。(写真1) 教職員で年度当初に共有し、学級経営案ともリンクさせ、年間を通し継続して指導できるようにした。(資料1・2・3) また、教職員が実践した成果と課題を交流した。さらに、全教職員と児童で取り組めるよう、特別教室を含む全教室に、発達段階に応じた大久保魂の図を掲示した。(図1)

**活動の成果：**  
 ・児童が「切りかえを意識して生活しよう」、「使った道具を大切にしよう」、「大久保魂の姿を見つけよう」など、大久保魂に関連する内容を日々のくらしのめあてとして設定し、ふりかえりを行うことができている。自分達のくらしの課題に対して、どのように解決すればよいかを考え、主体的に行動する姿や、他クラスの仲間へ目を向け、大久保魂を意識して行動した仲間の頑張りを認める姿が見られようになった。  
 ・生徒指導にも、大久保魂が活かされた。児童が自分の行動に対して、大久保魂の心でふりかえることによって、自分の行動が周りの仲間へ、どのような影響を与えたかに気づき、よりよい行動に改める姿が見られた。  
 ・年度末の教職員のアンケートには、異動者から、「取組みの内容を捉えやすく、意識して取り組むことができた。」という記述があった。ほぼ全ての教職員が『大久保魂』の取組みを理解し、指導・支援できていた。(図2)

**アピールポイント (アイデアや工夫)：**  
 2014年度から7年に渡り、継続して取り組むことができている。大久保魂の具体的な姿を簡単なキーワードにしたことで、教職員も児童も共有できたと捉える。2018年度、実践の成果と課題交流から、「ことば」を大切にすることが加わり、2019年度からは新たな取組みとして実践している。児童にとっても、大久保小学校の伝統的な取組みとして根付いており、転任してきた教職員に紹介する姿も見られた。

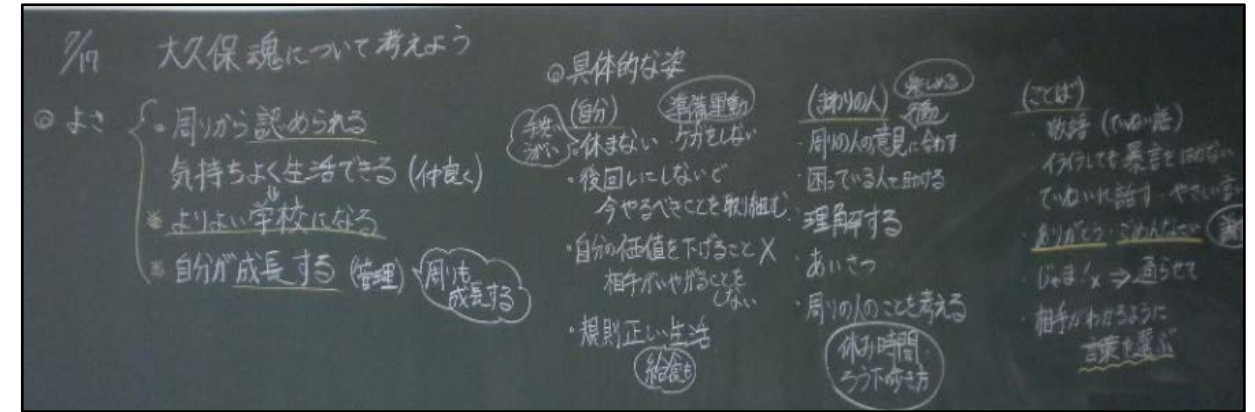


写真1 学級活動におけるふりかえりの板書 (2019年度1学期・5年生)

2020・5・27  
 大久保魂の取り組み

1. 大久保魂とは  
 大久保魂とは、子どもたちの思考力を育みながら、自ら学ぶ子を生み出すための、特別活動をもとにした指導・支援の拠点である。学級経営を行う基礎的な部分として位置づけ、子どもたち一人ひとりを育むとともに、協働的に学ぶための土台づくりを行うために取り組んでいる。  
 学級や各学年の実態を大久保魂という共通のフィルターを通して見ることによって、個人や学級、ときには、学年・全校の成長として取り上げ、それぞれの高まりを認め、褒めながら子どもたちの力を伸ばしていく。そして、課題が浮き上がってきたときには、どうすればよりよくなるかを子どもたちとともに考えていく。その際、子どもたちが気づいていない視点を提示し、他の視点から考えさせることによって、関連づける考え、多面的・多角的な考え方を鍛えることにもつながる。

2. 大久保魂の取り組み  
 (1) 今年度の重点取り組み  
 昨年度の成果を生かし、大久保魂の項目や具体的な手立ては継続していく。また、習慣化を図るために、一方で課題として挙げられた以下の二点について整理する。

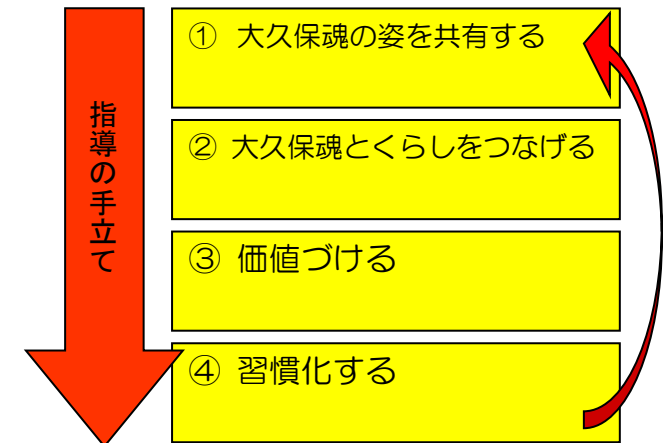
① 学級経営案とつなげる  
 教師が意識して、大久保魂の項目を学級経営案に反映する。また、学級活動の年間指導計画のどの活動で、大久保魂の取り組みができそうか考え、年間を通して習慣化を図っていく。

② 児童の主体的な行動につなげる  
 学級活動の他に、委員会やクラブ、行事等でめあてを決める時やふりかえりをするときに大久保魂と関連づける習慣を教師が意識し、助言する。教師が共通理解し、意識して声をかけ続けることで児童の中に大久保魂を大切にできる心が芽生え、行動につながると思える。

資料1 年度当初の共有文書

年 組	学級経営案	学級
笑顔あふれる学校	かしこく まあるく すこやかに	
学級経営や活動に関する自身の「考え方」「価値観」「思い」		
1学期(手だて)		
学習面	アープ	生活面(大久保魂)
理由		
についての評価など		
は書かない。		
2学期		
学習面	アープ	生活面(大久保魂)

資料3 学級経営案



資料2 指導・支援の手立て

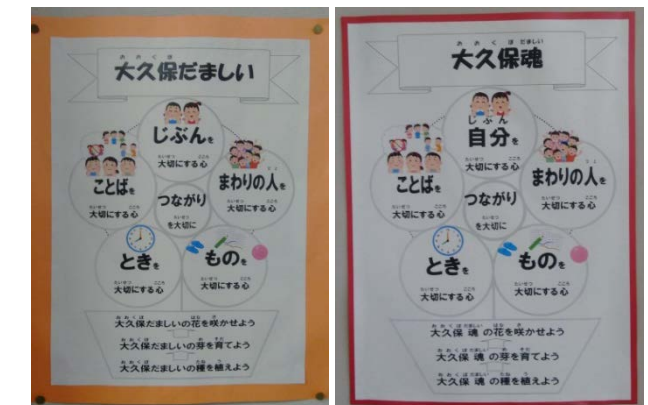


図1 大久保魂図 (左・低学年 右・高学年)

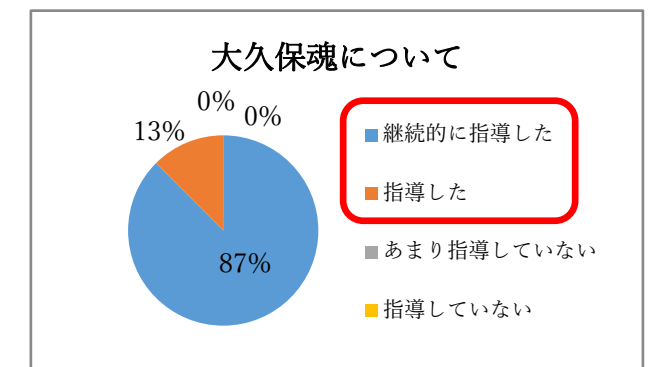


図2 年度末アンケートより